これがなかなか実行出来ず説教された。初め書いたように一個分隊三百余人が自由時間ともなると可成り騒動しい。それをたった一度の号笛で水を打ったような静寂にする。そうすれば小声でも伝達は隅々まで届く。このように、厳しかった旧海軍にも優れた一面があったと今でも思っている。最近各種行事はおろか、大学の講義時間中まで私語が絶えず、主催者や学校関係者を悩ましているという。こうしたことは事の良し悪しは別として、見習うべきではなかろうか。

宇佐日帰り研修報告

研修部　小野英治

四月十日(土)、予定どおり宇佐日帰り研修を実施した。参加者は十二名と少なく、当初のマイクロバスはキャンセル、二車に便乗することとなった。

往路の別府宇佐間は高速道が濃霧で、別府から一般道となったので、宇佐歴史博物館到着が予定より三十分余遅れ、十時半過ぎとなった。館内では、女子職員による概要説明があったが、熟知した専門職でないためか、いまいち。その後、自由見学をしたが、展示品のほとんどがレプリカであり、本物と区別がつかないのには驚かされた。

昼食後、依頼していた宇佐市立図書館の井上治広氏と、宇佐市教委文化課の林一也氏の御案内で、市指定史跡宇佐航空隊跡と関連史跡、国指定建造物豊前善光寺本堂、県指定史跡光岡(みつおか)城、国指定史跡四日市横穴墓と見学させていただいた。

御両人は専門的に研究されているだけに、詳細で理解しやすい説明には感謝するばかり。実に有意義な研修であったが、宇佐市はさすがに文化財を大切にして活用していると、感心させられたものである。

帰途は霧も薄れ、予定通り十七時前には、弥生、佐伯と到着したが、研修部としては、もっと多くの参加者があってほしかったと思った。

それは現地説明が充実したものであったことにもよるといえよう。